

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：32688

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17H02670

研究課題名（和文）プロジェクト・アプローチの展開とその教育思想 日欧の幼児教育における革新の系譜

研究課題名（英文）The Development of the Theory and Practice of Project Approach in Early Childhood Education; Genealogy of Innovation of ECE in Europe and Japan

研究代表者

太田 素子（OHTA, Motoko）

和光大学・現代人間学部・名誉教授

研究者番号：80299867

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,700,000円

研究成果の概要（和文）：活動主義か知性主義か、子どもの位置付け（有能な子ども観）を分析視覚として、日欧のプロジェクト型保育実践の比較研究を課題とした。研究期間にスウェーデン・英国の研究者・実践家との交流と翻訳が進み、プロジェクト・アプローチと「豊かな（有能な）子ども」概念への理解を深めた。海外の実践では幼児なりの悟性的な認識、関係認識、子どもなりの理論構築がより重視されている。日本における活動への没頭や感性の重視について今後考えてゆきたい。

また、日本のプロジェクト型の保育においてどのように幼小接続が図られているか、まだ部分的研究だが内外の学会に報告し、論文化した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現場に関心の高いレッジョ・エミリア・アプローチに関して、翻訳と人的交流により一過性にとどまらない深い理解を前進させた。

とくに教育ドキュメンテーションの機能に関わって、保育の目標・評価はどうあるべきかという今日的課題に取り組んだ。

また、プロジェクト型の幼児教育と関わりの深い幼小接続カリキュラムの問題について、国立教育系大学附属学校園の取り組みを検討し、事例を紹介した。

研究成果の概要（英文）：This is a comparative study focused on the Project Approach in early childhood education and care in European countries and Japan. The key concepts are, an idea of "Capable Children", Activism and Intellectualism. We have established cooperative relationships with researchers and practitioners in Sweden and the United Kingdom, over the three years. We have translated their works, and enriched our idea of Project Approach and "Rich and Capable Children". In their practices they emphasize children's intellectual and relative cognition and encourage them to reflect theoretically. In contrast, in Japan, we emphasize children's sensibilities and absorption in activities. We should consider further more.

We also published our comparative research focused on the transition from preschool to primary school based on Project Approach in Japan, tentatively.

研究分野：教育学

キーワード：レッジョ・エミリア・アプローチ プロジェクト・アプローチ 有能な子ども ドキュメンテーション
幼小接続 スウェーデンの幼児教育 幼児期の学び 探求的保育

1. 研究開始当初の背景

子ども達に一方的に知識を詰め込むのではなく、子どもの思考を活性化することができるような学習形態(書く、話す、表現する、討論する、発表する、作品を作るなど)を組み込んだ教育方法として、Active Learning, Deep active Learning が注目されている。それは20世紀初頭以来、教育家が様々な形で追い求めてきた「新教育」運動の目的とも重なるものであろう。乳幼児教育の場合、アクティブであることは大前提で、乳幼児は活動や経験を通じて外界と深く関わり、知識や概念を獲得してゆくことはすでに共通理解となっている。今日の問題は、単に活動を提供するだけではなく、子ども達が対象と深く関わり、友達の関わり方を理解・共有し、関わりあう経験のなかから対象を言葉や形象で表現することを通じて、いかに認識と思考を豊かに深めてゆくかという、学びの深さや能動性の検討であらう。

新教育の研究は、これまでも教育史の最も好まれた研究テーマの一つで、それ自体は決して目新しいものではない。しかし、幼児教育(保育という用語と特には区別せず、文脈でいずれも使用することにしたい)分野では、ヨーロッパで全体の研究動向について大きな見取り図の中で新教育の実践と研究の深まりを確認することが難しくなっている。

太田と浅井は、北イタリアのレッジョ・エミリア市の保育者と研究交流し、その視野から日本のプロジェクト型の保育実践の歴史的研究に取り組んできた。また、スウェーデンのレッジョ・エミリア・インスティテュート・ストックホルムを訪ねて、スウェーデンのプロジェクト型の実践の足跡を理解し、同時にイギリスのレッジョ・インスパイアード研究チーム('We think everywhere')との研究交流の一端に触れた。西欧をフィールドにしている楠、小玉と共同研究することで、ヨーロッパの新しい実践動向を分析することとした。

2. 研究の目的

第二次世界大戦後のヨーロッパと日本におけるプロジェクト型の保育活動を比較分析し、保育における子どもの探求的な学びの位置づけ、活動内容(教材開発)、保育者の役割、プロジェクト推進を保障する保育条件、保幼小接続の理念と方法などの諸点を明らかにすることを目的とする。作業仮説として、「活動主義」から「知性主義」へ、受動的な子ども観(無力なものとしての子ども)から能動的な子ども観(有能な子ども)へという座標軸を設定¹し、四象限のなかにプロジェクト型の保育を位置付けることで、それぞれの保育内容方法について理解を深める。これまでのプロジェクト型の保育実践の経験を整理して継承し、教材例や活動形態を含めて新機軸を提案する。

3. 研究の方法

この仮説モデルは、日本のプロジェクト型の保育を研究する中で、浅井幸子が提起したモデルである²。ヨーロッパのいくつかの保育方法と実践記録をこのモデルに当てはめて検討する



ことで、モデルそのものもさらに豊かに発展させられるだろう。プロジェクト型の幼児教育について、このような見取り図を持ちながら分析することで、プロジェクトを保育実践に導入する際の要点、つまり保育における子どもの探求的な学

びの位置づけ、活動内容(教材開発)、保育者の役割、保育条件、幼小接続の理念と方法などの諸点を明らかにすることを目的とする。

4. 研究成果

(1) スウェーデン、イギリスの関係者との研究交流

¹ 教育史学会第60回大会コロキウム「幼児教育における遊びと学び」への浅井幸子提案による。

2016.10.2, 於横浜国立大学。

² 同上。

この間に、スウェーデンの乳幼児教育施設・研究施設への視察訪問（共同の研究会の主催を含む）を行い、視察報告書（全90頁）をまとめた。

（PDF版の配布は可能です。[必要な方は ohata-m@wako.ac.jp](mailto:ohata-m@wako.ac.jp) にご連絡ください。）

またイギリスのレッジョ・インスパイアードの研究団体サイトライン(Sightlines Initiative)のメイドレー保育学校(校長ルイズ・ローイングス Louise Lowings)には期間中に二度訪問して、合同研究会を開催した。レッジョ・エミリア自体の研究が大切であることは言うまでもないが、ヨーロッパの分析的かつドクローリー・メソッドほか多様な新教育を育ててきた研究土壌の中でレッジョ・インパクトがどのように受容されているのか注目したことで、歴史的方法をとるこの研究グループ独自の知見を蓄積できた。

一方、訪問を通じて関係を築いてきたグニラ・ダールベリイ(Gunilla Dahlberg)、ピーター・モス(Peter Moss)、ルイズ・ローイングスを東京大学の発達保育臨床教育政策学センター(Cedep)と協力して日本に招聘し、大きな講演会だけでも6回企画運営した。その講演記録は学会紀要や雑誌、Cedepの公式サイトに up されている。3人の訪問者が訪れた日本の保育施設は、



お茶の水女子大学附属幼稚園、文京区立お茶の水女子大学子ども園、和光幼稚園、和光鶴川幼稚園、正和学園町田自然幼稚園、同つながり送迎保育園もりの、まちの子ども園代々木公園ほかで、日本の保育幼児教育に深い印象を持って頂けたと考えている。受け入れていただいた保育の現場も、国際的に第一線で活躍する

研究者、保育者の講演や討論、質問からさまざまな刺激を受けとっていただけたと考えている。

(2) プロジェクト・アプローチの探求

教育ドキュメンテーションは、実践の当事者(子ども、保育者、保護者他関係者)の振り返りの材料であるとともに、研究的に実践の分析を行う際の資料ともなる。浅井はメイドレー保育学校で参加した保育実践の記録を手掛かりに、教師の記録と研究の具体的な様相を授業研



究の方法で分析（浅井保育学会 2020）。梶は講演で紹介されたメイドレーのドキュメンテーションを（梶 2019b,c）、小玉と太田はストックホルム公立幼児学校のドキュメンテーションの分析と紹介を行った（小玉,太田『視察報告』2020）。太田は1 - 2歳児、4 - 5歳児のドキュメンテーションを手掛かりに、子どもの欲求・興味の理解、関心事の探求課題吟味の過程、活動課題の吟味と提起、子どもの表現と認識の深まりなど、探求的な活動のプロセスで生起する子どもの内面の意味形成の過程を分析紹介した（太田 2020b,保育学会 2020）。またスウェーデンの伝統的なテーマ保育とプロジェクト・アプローチの異質性を指摘した（太田 2017,2018a）。

さらに浅井はダールベリイ、レンズ=タグチらの理論研究と実践の関係に注目している（浅井 2019a ほか）。小玉と太田は比較社会史の視野から、梶は評価論と教師教育の観点から、今後もドキュメンテーションの分析方法を考えて行くことになる。

仮説との関わりで言えば、すでに4象限の仮説では分析枠組みが足りなくなっており、「知性的」ということの中身が感性なのか悟性や論理的認識なのか、子どもの興味関心と学びの中身の分析を豊かにすることで、プロジェクト・アプローチの研究を発展させる必要を意識している。

（3）幼小接続の教育内容・方法研究

日本の国立大学附属学校園にはアメリカの進歩主義教育、ホールスマン・スクールの実践やコロンビア大学ティーチャーズカレッジにおけるヒルとキルパトリックの「コンダクト・カリキュラム」の影響があり、幼児学校にはある種の親和性があった。また、明石女子師範学校附属校園が取り入れたドクロロイ・メソッドも小学校低学年までを連続した課程とみている。

太田はまず1970年代から80年代の幼年学校構想をめぐる保育関係者の議論と現場の実践的な模索について検討した。中央教育審議会答申の幼年学校構想 4・5歳から小学校低学年をまとめる4-4-5学校制度区分の構想 が出された直後、全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会の研究大会では、制度の内実を作る幼小接続のカリキュラムの形成を視野に入れた教育要領のあり方が議論になった。それは幼児教育の教育目標を年齢別到達基準として定めることが適当かどうかという論争になった。1970年代後半から80年代にかけて、幼小接続カリキュラムの研究は、「総合学習」の研究と重なりながら試行が続けられていた。（太田 2019a,2020a）

1990年代の幼小接続論を検討した小玉は、お茶の水女子大学附属幼稚園・附属小学校の場合を取り上げた。附属幼稚園も小学校も子どもの自発性を重視するという価値観を共有していたが、幼小接続期の新しいカリキュラムを模索する中で「円滑な移行」のみならず「適切な段差」を不可欠とみなし、幼稚園を小学校の準備段階とみなすのではなく、その逆に幼児教育の考え方を意識する小学校低学年カリキュラムの試みに踏み出すこととなったという。（小玉 2020a）

現在、太田,小玉,浅井が関わって旧師範系附属学校園の幼小接続問題資料集を編集している。

引用文献：

小玉亮子他（2020a）,Ryoko Kodama,Motoko Ohta, Sachiko Asai: Transition from Preschool to Primary school in Japan, お茶の水女子大学人文科学研究 16, 2020.3, pp.185-195.

太田素子(2020b)「『パーガモッセンと世界』を読む スウェーデンにおける新たな物語り 1」 梶 瑞希子(2020a)「イギリスの質評価とそれを超える物語り」『発達』165号、ミネルヴァ書房、pp.36-49. 46-52.

浅井幸子（2019a）「保育評価のオルタナティブ：ドキュメンテーションの思想」『教育目標・評価学会紀要』第29号、査読有.2019年12月、pp.7-16.

太田素子(2019a)「戦後日本の保育実践史と目標評価論」『教育目標評価学会紀要』第29号(特集幼児教育における目標・評価論)2019.査読有. pp.17-24.

楠 瑞希子(2019c)「現代イギリスにおける保育の記録と評価」『子ども学』第7号、萌文書林2019年4月、103 - 124頁。

太田素子(2018a)「幼児教育における<遊び>と<学び>--プロジェクト活動の分析を手がかりに」『和光大学現代人間学部紀要』vol.11,2018.03, pp.43-55.

太田素子(2017)「レッジョ・インスピレーションとスウェーデンの幼児教育」『和光大学現代人間学部紀要』vol.10,2017, pp.59-75.

科研費補助金 17 H02670 『視察報告 スウェーデンの社会と幼児教育』私家版.2020.3.p.90.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Ryoko Kodama, Motoko Ohta, Sachiko Asai	4. 巻 16
2. 論文標題 Transition from Preschool to Primary school in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学人文科学研究	6. 最初と最後の頁 185-195
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 太田 素子	4. 巻 165
2. 論文標題 『バーガモッセンと世界』を読む スウェーデンにおける新たな物語り 1	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 36-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 榎 瑞希子	4. 巻 165
2. 論文標題 イギリスの質評価とそれを超える物語り	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 46-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 浅井 幸子	4. 巻 29
2. 論文標題 保育評価のオルタナティブ：ドキュメンテーションの思想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育目標・評価学会紀要	6. 最初と最後の頁 7-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 40022177464	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田 素子	4. 巻 29
2. 論文標題 戦後日本の保育実践史と目標評価論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育目標評価学会紀要	6. 最初と最後の頁 17-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 40022177470	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶 瑞希子	4. 巻 29
2. 論文標題 日本とイギリスにおける保育の評価 - 評価スケールの利用と開発の背景 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 聖徳大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 201829_029-036	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶 瑞希子	4. 巻 9
2. 論文標題 イギリスの幼児教育におけるプロジェクト実践とその展開 - メイドリー保育学校ルイズ・ローイングス 校長講演記録 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職実践研究(聖徳大学教職研究科紀要)	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶 瑞希子	4. 巻 7
2. 論文標題 現代イギリスにおける保育の記録と評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 子ども学	6. 最初と最後の頁 103-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 40021944601	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田 素子	4. 巻 11
2. 論文標題 幼児教育における<遊び>と<学び> プロジェクト活動の記録を手がかりに	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和光大学現代人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 43-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田 素子	4. 巻 12
2. 論文標題 子育ての歴史と現在 17世紀から21世紀へ(特別企画、太田素子教授退官記念)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和光大学現代人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 226 - 236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 太田素子	4. 巻 13
2. 論文標題 指定討論(シンポジウムの記録 後近代の保育幼児教育改革:スウェーデンのレッジョ・インスピレーション)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 幼児教育史研究	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅井 幸子	4. 巻 156
2. 論文標題 スウェーデンのレッジョ・インスピレーション	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 62-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田 素子	4. 巻 10
2. 論文標題 レッジョ・インスピレーションとスウェーデンの幼児教育	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 和光大学現代人間学部紀要	6. 最初と最後の頁 59-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浅井 幸子	4. 巻 25
2. 論文標題 大会を終えて (シンポジウム報告)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 幼児教育史学会会報	6. 最初と最後の頁 4-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅井 幸子	4. 巻 8
2. 論文標題 スウェーデンの保育・幼児教育を訪ねて ストックホルム・プロジェクトの現在	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和光大学保育実習センター通信	6. 最初と最後の頁 16-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小玉亮子/ケレケシュ ジュジャ/盧中潔/水津幸恵/清水美紀	4. 巻 5
2. 論文標題 幼児教育改革の時代におけるアメリカの保育者養成テキストの変化と課題ー Who am I in the Lives of Children. 1st ed. から10th ed. までを対象としてー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 お茶の水女子大学子ども学研究紀要	6. 最初と最後の頁 7-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 5件）

1. 発表者名 浅井 幸子・太田 素子
2. 発表標題 プロジェクト・アプローチの研究（1） Treeのドキュメンテーションとリフレクション
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会 奈良教育大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田 素子、浅井 幸子
2. 発表標題 プロジェクト・アプローチの研究（2） 1・2歳児「渦」の分析を手がかりに
3. 学会等名 日本保育学会第73回大会 奈良教育大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅井 幸子
2. 発表標題 『赤い鳥』と生活綴方における子どもの構築 文化の創り手としての子ども
3. 学会等名 幼児教育史学会第15回大会 シンポジウム 白梅学園大学・白梅学園短期大学
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅井幸子、太田素子、小玉亮子
2. 発表標題 What is “quality transition”? - Examination of transition from early childhood education to primary education from a historical perspective
3. 学会等名 World Education Research Association シンポジウム 学習院大学（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅井幸子、小玉亮子、太田素子
2. 発表標題 Two types of the transition from preschool education to primary school education in Japan.
3. 学会等名 EECERA ANNUAL CONFERENCE, 29th ギリシャ テッサロニキ大学(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 榎瑞希子
2. 発表標題 Capture the efficacy of project approach in a Japanese ECEC curriculum; a videodocumentation of "Play-shops" in three academic years at a Kindergarten.
3. 学会等名 EECERA ANNUAL CONFERENCE, 29th ギリシャ テッサロニキ大学(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅井幸子
2. 発表標題 保育評価のオルタナティブ教育ドキュメンテーションの思想
3. 学会等名 教育目標・評価学会第29回大会シンポジウム「幼児教育における目標・評価論
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田素子
2. 発表標題 日本の保育実践史と目標・評価論
3. 学会等名 教育目標・評価学会第29回大会シンポジウム「幼児教育における目標・評価論
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 楠 瑞希子、浅井 幸子、太田 素子
2. 発表標題 保育記録の系譜 子ども研究と新教育の国際的展開
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Sachiko ASAI, Motoko OHTA
2. 発表標題 Transformation of the view of the child identified in documentation: the effect of the introduction of a project method on ECEC in Japan
3. 学会等名 EECERA ANNUAL CONFERENCE, 28th (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 浅井幸子、太田素子ほか
2. 発表標題 シンポジウム「後近代の保育・幼児教育改革 スウェーデンのレッジョ・インスピレーション」
3. 学会等名 幼児教育史学会(Cedepと共催) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小玉亮子
2. 発表標題 日本における児童の保育理念、制度と実践
3. 学会等名 中国・復旦大学、(招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 浅井幸子 (共)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 pp.151-174
3. 書名 保育原理 (第9章 保育の歴史から何を学ぶか)	

1. 著者名 科研費補助金 (基盤B) 17 H02670 プロジェクト・アプローチの展開とその教育思想 日欧の幼児教育における革新の系譜 (代表太田素子)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 私家版	5. 総ページ数 90
3. 書名 視察報告 スウェーデンの社会と幼児教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>国際研究集会 Peter Moss & 佐藤学 スペシャルトーク、レッジョ・インパクトを再考する、Rethinking the impact of Reggio Emilia. 2019年12月3日お茶の水女子大学 保育講座 イギリスの新しい保育について http://www.wako.ac.jp/blog/index_univ/5480.html 国際セミナー「イギリス幼児教育におけるプロジェクト実践とその展開」 http://www.ocha.ac.jp/event/d006262.html ストックホルム大学名誉教授グニラ・ダールベリ氏が和光幼稚園で研究会 https://www.wako.ac.jp/blog/index_univ/5016.html</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	梶 瑞希子 (TABU Mikiko) (30269360)	聖徳大学・教職研究科・教授 (32517)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	浅井 幸子 (ASAI Sachiko) (30361596)	東京大学・大学院教育学研究科（教育学部）・准教授 (12601)	
研究 分担者	小玉 亮子 (KODAMA Ryoko) (50221958)	お茶の水女子大学・基幹研究院・教授 (12611)	